

2024 年度講義要項

(こども保育学科 1 年生用)

目 次

I. 授業日程表	1
II. 資格取得時の到達目標・求められる保育者像	2
III. 教養科目	
日本国憲法	5
アカデミックスキル	6
情報処理入門	7
英語コミュニケーション	8
幼児体育	9
IV. 保育の本質・目的に関する科目	
教育原理	13
社会福祉	14
教師論	15
V. 保育の対象の理解に関する科目	
教育心理学	19
子どもの保健	20
VI. 保育の内容・方法に関する科目	
保育の計画と評価	23
保育内容総論	24
保育内容「表現」	25
保育内容「環境」	26
保育内容「人間関係」	27
保育内容「健康」	28
子どもの遊びと食	29
音楽（理論）	30
子どもの遊びと文化	31
教材研究	32
乳児保育Ⅰ	33
乳児保育Ⅱ	34

障害児保育基礎	35
音楽表現	36
ピアノ I	37
造形表現 I	38
言語表現	39
身体表現	40
教育方法論	41
VII. 保育実習	
保育実習 I (保育所)	45
保育実習 I (保育所) 事前事後指導	46
VIII. 学校独自の科目	
社会人基礎力 I	49

資格取得時の到達目標

1. 保育者に必要な人間性や倫理観、態度を身につける。
2. 保育に必要な知識や理論、保育技術を習得する。
3. 乳幼児の発達の特性を理解し、その発達を促すような関わりや援助の方法を習得する。
4. 子どもとの信頼関係を十分に築き、共によりよい保育環境を創造する必要性が理解できる。
5. 保育所保育指針に基づき指導計画を立案し、実践する方法を習得する。
6. 的確な記録、記述の方法を身につける。
7. 保護者支援、家庭支援、相談・援助のスキルを学び、現場での実践に活かすことができる。
8. 他の職種の役割を理解し、積極的にチームに参画する姿勢を養う。
9. 保育者として必要な音楽の知識を学習し、歌や楽器演奏の技術を習得する。
10. 歌や楽器演奏などを通して、音楽で子どもと通じ合える実践力を養う。

求められる保育者像

1. 心身共に健康で、豊かな感性と深い愛情を持って子どもと接することができる。
2. 一人ひとりを受けとめ、心に寄り添い、共感できる。
3. 子どもの育ちへの深い理解ができ、適切な関わりができる。
4. 保護者との信頼関係を築き、必要に応じて支援や提案ができる。
5. 保育現場で起こりうるあらゆる事態に臨機応変に対応できる。
6. 自ら行う保育について、多様な視点に立って自己評価を行い、保育の質の向上に努める。
7. 研修や自己研鑽を通じて、人間性と専門性の向上に努める。
8. 変化する社会情勢に対応できるよう、情報収集に努める。
9. 子どもの人権に配慮した保育の実践ができる。
10. 地域や関係機関との連携や協力ができる。
11. 高い倫理観を持つ。

授 業 概 要

2024 年度

日本国憲法		講義		担当者	実務経験
				嘉村 雄司	○
15 回	30 時間 (2 単位)	1 年 後期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>日本国憲法の考え方について、特に人権問題を中心に考える。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>教科書の記述に基づき、日本国憲法の基本的な考え方についてわかりやすく説明する。</p> <p>[達成課題 (達成課題)]</p> <p>日本国憲法の内容について基本的な内容を理解する。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法とは何か 2. 日本国憲法の成立 3. 日本国憲法の基本原理 4. 基本的人権総論 5. 人権享有主体 6. 幸福追求権 7. 法の下での平等 8. 思想・良心の自由 9. 表現の自由 10. 表現の自由の制限 11. 経済的自由 12. 人身の自由 13. 社会権 14. 平和的生存権 15. 筆記試験・まとめ 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>教科書の次回授業の該当箇所を読んでおくこと。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>高乗正臣『保育者のための法学・憲法入門 第2版』(成文堂、2020年)</p>				<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験 (70%) 授業態度 (30%) によって評価する。</p>	
<p>[備考]</p> <p>教育機関 (大学) で法学教育に携わった教員が、その経験を活かして教授活動を行う。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

情報処理入門		演習		担当者	実務経験
				澤口 右京	
15 回	30 時間 (2 単位)	1 年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>パーソナルコンピュータの操作に慣れ、職場で必要とされる基本的な技能を習得することを目的とする。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint の演習を行う。</p> <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <p>Word においては、文書等が作成できるようになること、Excel においては、表計算、グラフ作成ができるようになることを目的とする。PowerPoint においては、プレゼンテーションができるようになることを目的とする。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Word の使い方 基本的操作 2. Word の使い方 簡単なおたよりをつくる 3. Word の使い方 ビジュアルコンテンツを作る 4. Word の使い方 図表の入ったおたよりをつくる 5. Word の使い方 まとめ 6. PowerPoint の使い方 基本的操作 7. PowerPoint の使い方 プレゼンテーション 8. PowerPoint の使い方 案内・紹介をつくる 1 9. PowerPoint の使い方 案内・紹介をつくる 2 10. PowerPoint の使い方 まとめ 11. Excel の使い方 基本的操作 12. Excel の使い方 基本的操作(計算・関数) 13. Excel の使い方 児童台帳をつくり 14. Excel の使い方 身体記録をつくる 15. Excel の使い方 まとめ 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>テキストの内容を理解し、実際にソフトウェアにふれておくこと。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>保育者のためのパソコン講座(萌文書林)</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>演習課題(100%)</p>		
<p>[備考]</p>					

授 業 概 要

2024 年度

英語コミュニケーション		演習		担当者	実務経験
				山根 よし子	○
15 回	30 時間 (2 単位)	1 年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会がグローバル化し、保育現場でも英語によるコミュニケーションが必要な場面が見られる時代になった。これまで積み重ねてきた英語の知識を活用して相手の思いを理解し、こちらの伝えたいことを話せるようになることを目的としている。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>教科書に沿って授業を進め、Unit ごとに設定された場面での園児や保護者との会話をペアワーク等で行う。英語の歌や読み聞かせを個人やグループで行い、英語に親しむ。</p> <p>[達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語で基本的なコミュニケーションがとれる ・保育園や幼稚園で必要となる英語に親しむ 					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方と評価の仕方について・自己紹介 ・ Pre-unit 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 9. Unit 4 6. Unit 5 7. Unit 6 8. Unit 7 9. Unit 8 10. Unit 9 11. Unit 10 12. Unit 11 13. Unit 12 14. Unit 13 15. Unit 14 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の Your Vocabulary 予習 ・Unit ごと的小テストのための復習 					
<p>[教科書]</p> <p>Happy English for Childcare (金星堂)</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>各 Unit ごと Review Quiz、小テスト (60%) ペアワーク (20%)、出席回数 (20%)</p>		
<p>[備考]</p> <p>英語教育に携わった教員が保育現場でのさまざまな場面を想定し、必要となる英語を楽しく学ぶ。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

幼児体育		実技		担当者	実務経験
				栃木 智美	○
15 回	30 時間 (1 単位)	1 年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>幼児期における運動遊びのねらいと内容について理解するとともに、指導に必要な基礎的技術・安全教育について実践を通して習得する。</p> <p>[授業の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の基礎運動や年齢の発達に伴う運動への興味を学び、学生自身が保育における運動遊びを体験的に学び、幼児に通ずる「あそびごころ」を育む。 ・ 実際の散歩や戸外活動を想定して外へ出掛け、配慮事項や遊びの選択基準を知り、安全管理に対する意識を高める。 <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期における運動遊びと身体発達の関連を理解し、説明することができる。 ・ 幼児期における運動遊びの提案をし、実践することができる。 					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 散歩の意義と目的 3. 散歩の準備品と安全管理 4. 自然と運動遊び① 5. 自然と運動遊び② 6. フィールドワーク① 7. フィールドワーク② 8. 幼児の運動遊びの捉え方 9. 子どもの発達とつきたい力① 10. 子どもの発達とつきたい力② 11. 子どもの発達とつきたい力③ 12. 子どもの発達とつきたい力④ 13. 子どもの発達とつきたい力⑤ 14. 救急蘇生法① 15. 救急蘇生法② 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>事前の課題や準備物に対して準備を整えて授業に参加する。</p>					
<p>[参考文献]</p> <p>適宜、プリント等資料配布</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況 (30%)、演習取り組み (50%) 提出課題 (20%)</p>		
<p>[備考]</p> <p>保育現場での保育士経験がある教員が、その経験を活かして幼児期の運動遊びについて指導する。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

教育原理		講義		担当者	実務経験
				小山優子	○
15 回	30 時間 (2 単位)	1 年 後期		必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>この授業では、教育とは何かを踏まえた上で、幼児教育に携わる保育者が知っておくべき教育に関する基礎的な理論を理解することを目的とする。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>教育の制度や歴史、児童観や教育観の変遷を知る中で、子どもを見る視点や教育理論・教育方法を学び、教育とは何かを自分なりに考えることができるようにする。また、保育者の子どもへの関わりや指導方法、子どもの遊びや生活をよりよいものにするための工夫について、教育や保育に関するビデオを見ながら学ぶことを目指す。</p> <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <p>授業の学習目標は、(1)教育とは何かを考え、教育の本質について理解する、(2)幼児教育について、歴史的、制度的、思想的に理解する、(3)教育の現状と課題を知る、である。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、教育・保育の基本用語 2. 教育の意義と本質① 3. 教育の意義と本質②、教育と日本国憲法 4. 幼児期の教育とは、子どもと遊び 5. 幼児教育施設の種類と特徴 6. 学校教育・幼児教育の歴史 7. 幼児教育の制度 (認定こども園①) 8. 幼児教育の制度 (認定こども園②) 9. 子どもの発達と教育者・保育者の役割 10. 子ども理解① 11. 子ども理解② 12. 子どもと環境 13. 保育の概念、子どもをとりまく現代的問題 14. 教育・保育の計画と評価 15. 筆記試験・まとめ 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で視聴する教育・保育に関するビデオの視聴メモをとり、15 回目の授業終了後に全体的なまとめのレポートを作成する。 ・レポート課題のビデオ視聴メモ (まとめ) は必ず提出すること。 					
<p>[教科書・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北野幸子『乳幼児カリキュラム論』建帛社 ・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 			<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績は、レポート課題(50%)、テスト(50%)、2/3 以上の出席回数等を考慮して、総合的に評価する。</p>		
<p>[備考]</p> <p>教育機関 (短期大学・大学) で幼児教育に携わった教員が、その経験を活かして教授活動を行う。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

社会福祉		講義		担当者	実務経験
				馬淵 芳美	○
15 回	30 時間 (2 単位)	1 年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する ・社会福祉の制度や実施体系等について理解する ・社会福祉と児童福祉の関連性について理解する ・社会福祉の動向と課題について理解する <p>[授業の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に必要な基礎知識の習得を図り、自ら考えることができるよう、理解を促す。 <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉専門職として必要な、社会福祉の基礎知識を修得する。 					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎概念 2. こどもと家族の福祉①妊娠・出産にかかわる制度 3. こどもと家族の福祉②こどもの養育に関わる制度 4. こどもと家族の福祉③こどもの権利 5. こどもと家族の福祉④児童虐待への対応 6. 社会保障制度のしくみ 7. 年金制度・医療保険制度のしくみ 8. 障害児者福祉のしくみ 9. 女性福祉のしくみ 10. 地域福祉のしくみ 11. ソーシャルワークの概要 12. 低所得者の福祉 13. 高齢者福祉のしくみ 14. 社会福祉をささえる人たち 15. まとめ、筆記試験 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の授業内容のテキストを事前に読んでおく。 					
<p>[教科書]</p> <p>図解で学ぶ保育 社会福祉《第3版》(萌文書林)</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>筆記試験：50%・考察表：20% レポート：20%・出席・授業態度：10% *但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする。</p>		
<p>[備考]</p> <p>福祉現場経験のある教員が、その経験を活かして社会福祉について講義を通して指導する。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

教師論	講義	担当者	実務経験
		吉田 彰二	○※1
		澤口 右京	
		黒田 慎太郎	○※2
15 回	30 時間 (2 単位)	1 年 前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1. 教育の目的や教師の役割について理解する。 2. 教師をめぐる新しい動きについて理解する。 3. 教師の資質向上・連携・協働について理解する。 4. 保育者の専門性について考察し、理解する。 5. 教師の歴史を概観し今後の教師の役割を考える。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>教育の目的や教師の役割、保育の専門性について具体的に学ぶ。また、教育環境の変化を理解し、今後求められる保育者としての能力・資質や役割について考察する。</p> <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <p>教師・保育者の役割や専門性、現場で望まれる保育について説明することができる。</p>			
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の目的・教師の役割 2. 教育観と教師の仕事 3. 教師の資質と責務 4. 教師をめぐる新しい動き① (国際化) 5. 教師をめぐる新しい動き② (情報化) 6. 子どもの社会的発達と現代社会 7. 教師の研修の必要性とその意義 8. チームとしての学校 9. 教師の身分と服務義務 10. カウンセリングマインド① 11. カウンセリングマインド② 12. 幼稚園・保育所の一日の流れと保育者の援助のポイント 13. 幼稚園教諭に求められる専門性 14. 教師の歴史 15. 教師の歴史と今後の教師の役割 			
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>事前：次の授業内容のテキストを事前に読んでおく。 事後：授業で配布する課題プリントを完成させ提出する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>九州短大テキスト：「(新訂)「教職入門」 保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)</p>		<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・授業態度 (10%) レポート課題 (30%) 筆記試験 (60%)</p>	
<p>[備考]</p> <p>※1 教育現場に携わった教員が、その経験を活かし事例を用いて説明、指導する。 ※2 保育現場での経験がある教員が、その経験を活かし講義を行う。</p>			

授業概要

2024年度

教育心理学		講義		担当者	実務経験
				澤口 右京	
15回	30時間(2単位)	1年 後期		必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>教育心理学における基礎的な知見を習得し、心理学的人間観を理解することを目的とする。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>教育に関連する諸事象について、教育の効果を高めるのに役立つ心理学的知見と心理学的技術を教育心理学の観点として学ぶ。</p> <p>[達成課題(到達目標)]</p> <p>心理学の基礎的な知識について学び、保育者として必要な心理学の用語や概念について説明できる。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学史・心理学概論 2. 心理学測定法 3. 学習と条件付け 4. 動機づけ 5. 感覚・知覚 6. 記憶 7. 対人関係 8. 個人と集団 9. 思考 10. 感情 11. 人格 12. 知能 13. 健康1 14. 健康2 15. 課題研究 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>授業において配布したプリントを用い、復習を行うこと。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>心理学[第5版 補訂版] 東京大学出版会 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎 編</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート(40%)、筆記試験(60%)</p>		
<p>[備考]</p>					

授 業 概 要

2024 年度

子どもの保健		講義		担当者	実務経験
				竹下 裕美	○
15 回	30 時間 (2 単位)	1 年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 ・子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 ・子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 ・子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。 <p>[授業の内容]</p> <p>生命の保持と情緒の安定に係る保健活動と意義を知り、子どもの心身の健康と保健の意義・子どもの身体発育を理解する。</p> <p>子どもの疾病とその予防及び適切な対応を理解する。</p> <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <p>子どもの心身の健康と発育、子どもの疾病について説明することができる。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2. 健康の概念と健康指標 3. 現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策 4. 地域における保健活動と子ども虐待防止 5. 身体発育及び運動機能の発達と保健 6. 生理機能の発達と保健 7. 健康状態の観察および心身の不調等の早期発見 8. 発育・発達の把握と健康診断 9. 保護者との情報共有 10. 主な疾病の特徴①新生児の病気、先天性の病気 11. 主な疾病の特徴②循環器、呼吸器、血液、消化器の病気 12. 主な疾病の特徴③アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気 13. 主な疾病の特徴④脳の病気、⑤感染症、その他の疾患 14. 子どもの疾病の予防と適切な対応、 15. まとめ、筆記試験 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>次の授業内容のテキストの講を事前に読んでおく。</p>					
<p>[教科書・参考文献]</p> <p>第 11 巻「子どもの保健」(中央法規)</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>筆記試験 (80%)、授業態度 (20%)</p>		
<p>[備考]</p> <p>看護師として勤務経験を有する教員が、その経験を活かし講義を行う。</p>					

授業概要

2024年度

保育の計画と評価		講義		担当者	実務経験		
				黒田 慎太郎	○		
15回	30時間(2単位)	1年	通年	必修			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解し、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。また、子ども理解に基づく保育の過程について、その全体構造を捉え、理解する。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>保育の計画と評価の基本、保育所における保育の計画、保育の評価について修得する。</p> <p>[達成課題(到達目標)]</p> <p>保育は、「計画・実践・記録・省察・評価・改善」の循環型で行われることを理解する。</p>							
<p>[授業計画]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 幼児期の特質 2. 幼稚園・保育所・認定こども園 3. 基礎となる幼児の姿 4. 教育課程 5. 幼児教育課程・保育カリキュラムの基本 6. 目的・目標とねらい及び内容 7. 指導計画作成の意義、留意点 8. 筆記試験 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 0・1・2歳児の指導計画① 2. 0・1・2歳児の指導計画② 3. 3・4・5歳児の指導計画① 4. 3・4・5歳児の指導計画② 5. 異年齢の指導計画 6. 模擬保育に向けた教材作成 7. 模擬保育 </td> </tr> </table>						<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 幼児期の特質 2. 幼稚園・保育所・認定こども園 3. 基礎となる幼児の姿 4. 教育課程 5. 幼児教育課程・保育カリキュラムの基本 6. 目的・目標とねらい及び内容 7. 指導計画作成の意義、留意点 8. 筆記試験 	<p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 0・1・2歳児の指導計画① 2. 0・1・2歳児の指導計画② 3. 3・4・5歳児の指導計画① 4. 3・4・5歳児の指導計画② 5. 異年齢の指導計画 6. 模擬保育に向けた教材作成 7. 模擬保育
<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 幼児期の特質 2. 幼稚園・保育所・認定こども園 3. 基礎となる幼児の姿 4. 教育課程 5. 幼児教育課程・保育カリキュラムの基本 6. 目的・目標とねらい及び内容 7. 指導計画作成の意義、留意点 8. 筆記試験 	<p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 0・1・2歳児の指導計画① 2. 0・1・2歳児の指導計画② 3. 3・4・5歳児の指導計画① 4. 3・4・5歳児の指導計画② 5. 異年齢の指導計画 6. 模擬保育に向けた教材作成 7. 模擬保育 						
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>テキストの次の講義内容の章を事前に読んでおく。</p>							
<p>[教科書]</p> <p>保育の計画と評価 演習ブック(ミネルヴァ書房)</p> <p>九州短大テキスト: あたらしい幼児教育課程総論 (同文書院)</p> <p>保育所保育指針解説(フレーベル館)</p> <p>幼稚園教育要領解説(フレーベル館)</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期: 授業態度 (20%)</p> <p>筆記試験 (80%)</p> <p>後期: 指導計画立案 (50%)</p> <p>演習への取り組み (50%)</p>				
<p>[備考]</p> <p>保育現場での経験がある教員が、その経験を活かし講義を行う。</p>							

授 業 概 要

2024 年度

保育内容総論		演習		担当者	実務経験
				黒田 慎太郎	○
15 回	30 時間 (1 単位)	1年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。また、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>保育の全体的構造と保育内容、保育の基本を踏まえた保育内容の展開、保育の多様な展開について学ぶ。</p> <p>[達成課題（到達目標）]</p> <p>保育とは、養護と教育が一体となつて行われることを説明できる。</p> <p>保育のP D C Aサイクルの具体的説明ができる。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容総論の理解 2. 保育内容の歴史の変遷とその社会的背景 3. 子どもの発達や生活に即した保育内容 4. 養護と教育の一体性 5. 子どもの生活、遊びと保育内容 6. 環境を通して行う保育 7. 保育におけるP D C Aサイクル、絵本の読み聞かせに関して 8. 絵本の読み聞かせの模擬保育① 9. 保育活動を行う際の計画及び事前準備について 10. 製作活動時における子どもの姿、保育者の援助・配慮 11. 製作活動の模擬保育① 12. 運動遊び・身体を動かす遊びにおける子どもの姿、保育者の援助・配慮 13. 運動遊び・身体を動かす遊びの模擬保育① 14. 運動遊び・身体を動かす遊びの模擬保育② 15. 筆記試験 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>事前に、次回の授業内容のテキストを読んで予習をする。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>演習 保育内容総論 保育の総合性を読み解く（萌文書林）</p> <p>保育所保育指針解説（フレーベル館）</p> <p>幼稚園教育要領解説（フレーベル館）</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業態度 (10%)</p> <p>課題・演習への取り組み (30%)</p> <p>筆記試験 (60%)</p>		
<p>[備考]</p> <p>保育現場での経験がある教員が、その経験を活かし講義を行う。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

保育内容「表現」		演習		担当者	実務経験
				黒田 慎太郎	○
8 回	15 時間 (1 単位)	1年 後期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育所保育指針に示す乳児保育における 3 つの視点を基盤に 1 歳以上 3 歳未満児及び 3 歳以上児の保育における 5 領域の「表現」に関するねらい、保育内容について具体的に学ぶ。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>領域「表現」における保育者の役割は、子どもが表したいと思うものや出来事に出合える機会を作ることである。「表現すること」を楽しめる環境をどう構成していくかを具体的な保育場面を想定しながら理解する。そして、子どもたちが達成感や充実感を得ることができるよう導き、支える具体的な方法や教材の研究をする。</p> <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <p>領域「表現」の特性や乳幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」のねらい及び内容① 2. 領域「表現」のねらい及び内容① 3. 音楽的な感性と表現 4. 身体的な感性と表現 5. 造形的な感性と表現 6. 表現活動の応用演習① 7. 表現活動の応用演習② 8. 筆記試験 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>指定された教材の下調べをして、準備をする。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>表現指導法 感性を育て、表現の世界を拓く (萌文書林)</p> <p>保育所保育指針解説 (フレーベル館)</p> <p>幼稚園教育要領 (フレーベル館)</p> <p>[参考文献]</p> <p>教員作成資料</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業態度 (10%)</p> <p>演習への取り組み (30%)</p> <p>筆記試験 (60%)</p>		
<p>[備考]</p> <p>保育現場での経験がある教員が、その経験を活かし講義を行う。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

保育内容「環境」		演習		担当者	実務経験
				黒田 慎太郎	○
8 回	15 時間 (1 単位)	1 年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育所保育指針に示す乳児保育における 3 つの視点を基盤に 1 歳以上 3 歳未満児及び 3 歳以上児の保育における 5 領域の「環境」に関するねらい、保育内容について具体的に学ぶ。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>幼児期の探したり、試したりするなどの体験を積み重ねていくことが、生涯にわたる生きる力や学びの基礎になるとされている。このような乳幼児期における身近な環境とのふれあいについて、具体的な事例や体験型で学んでいく。また、乳幼児期の発達におけるさまざまな環境の意義や役割についても学ぶ。</p> <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <p>子どもたちの「環境にかかわる力」を育てるための具体的ななかかわり、保育方法を修得する。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「環境」を学ぶ 2. 「保育所保育指針」から領域「環境」を読み解く 3. 校外学習「教材となる自然を見つけよう」 4. 校外学習「教材となる自然を見つけよう」 5. 領域「環境」と保育方法 6. 「〇〇遊び」に関する方法、指導案 7. 「〇〇遊び」体験 8. 筆記試験 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>教材の下調べや教材の準備をする。</p> <p>演習後のレポートを書いて提出する。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>保育所保育指針解説 (フレーベル館)</p> <p>幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)</p> <p>[参考文献] 教員作成資料</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業態度 (15%)、演習課題 (25%)</p> <p>筆記試験 (60%)</p>		
<p>[備考]</p> <p>保育現場での経験がある教員が、その経験を活かし講義を行う。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

保育内容「人間関係」		演習		担当者	実務経験
				澤口 右京	
8 回	15 時間 (1 単位)	1 年 後期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>領域「人間関係」の内容とその意義について取り上げ、人間関係形成の課題について理解を深めることを目指す。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>各年齢における具体的な事例を挙げ、自己理解と他者理解について学ぶ。</p> <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <p>人間関係形成の課題について理解を深める。他者理解を通じた関係を築く重要性和、人間関係を育む保育者の役割について学習する。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己理解と自己概念 2. 人間関係の理解 3. 乳児期の人間関係 4. 幼児前期の人間関係 5. 幼児後期の人間関係 6. 保護者・保育者との人間関係 7. 社会的スキル・向社会的行動 8. 課題研究 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>教科書・配布された資料を読み、理解しておくこと。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>保育所保育指針解説(フレーベル館)</p> <p>幼稚園教育要領解説(フレーベル館)</p> <p>[参考文献]</p> <p>配布資料</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>演習(40%)、レポート(30%)、筆記試験(30%)</p>		
<p>[備考]</p>					

授業概要

2024年度

保育内容「健康」		演習		担当者	実務経験
				栃木 智美	○
8回	15時間(1単位)	1年 後期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」など、保育所における「健康」の意義や保育者の関わり、保育環境構成などを具体的に学び、個々に応じた心身の健康のために必要な知識を習得していく。</p> <p>[授業の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針の1歳児以上3歳児未満児と3歳以上児についての「ねらい」「内容」についての要点を学ぶ。 ・保育所における健康な生活のための、保育者の役割について理解する。 <p>[達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針の1歳以上3歳児未満児と3歳以上児についての「ねらい」「内容」に説明することができる。 ・保育所における健康な生活のための、保育者として必要な役割について実践することができる。 					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期において取り組む健康・守られる健康とは 2. 健康のねらいと内容①(1歳以上3歳未満児) 3. 健康のねらいと内容②(1歳以上3歳未満児) 4. 健康のねらいと内容①(3歳以上児) 5. 健康のねらいと内容②(3歳以上児) 6. 健康のねらいと内容③(3歳以上児) 7. 健康のねらいと内容④(3歳以上児) 8. 筆記試験 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>教科書の示すページについて予習・復習しておく。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>保育所保育指針解説(フレーベル館)</p> <p>[参考文献]</p> <p>適宜、プリント等資料配布</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況(20%)、授業態度(30%)</p> <p>筆記試験(50%)</p>		
<p>[備考]</p> <p>保育現場での保育士経験がある教員が、その経験を活かして領域「健康」について指導する。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

子どもの遊びと食		演習		担当者	実務経験
				馬淵 芳美	
10 回	20 時間（1 単位）	1年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子どもの遊びと食べることのつながりを理解し、食育も幼児教育の総合的な学びの一環であることを理解する。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>子どもが生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、子どもに食べることの楽しさを伝える実践力を学ぶ。また、食文化を継承していく視点から行事食の研究もする。</p> <p>[達成課題（到達目標）]</p> <p>幼児教育としての食育について説明することができる。 よく遊び込むことが、子どもたちの食べることにつながっていることを知る。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 「子どもの遊び」と「食」の関係性の理解と食育活動 「春」をテーマとした子どもの遊びと食 よもぎ団子を作ってみよう！ 夏野菜を育てよう！（計画） 夏野菜づくり（畑作業・苗植え・看板づくり） 地域の食文化をテーマに・・・「ささまき」作りに挑戦！ 手作り「うどん」を作ってみよう！ 夏野菜づくり（収穫体験） 収穫物を使って「カレー」を作ろう！ 食を通しての学びについて <p>※自然事象に関わる授業内容のため、日程の変更あり</p>					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>授業で使用する教材や食材の事前の下調べをする。 授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。</p>					
<p>[参考文献]</p> <p>教員作成資料</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業態度（10%）、 授業参加の積極性（60%） レポート課題（30%）</p>		
<p>[備考]</p>					

授業概要

2024年度

音楽（理論）		講義		担当者	実務経験
				杉原 響平	
15回	30時間（2単位）	1年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>音楽の基礎知識を学習する。保育者として必要な楽譜を読み、歌い、ピアノで弾く力の知的基盤をつくることを目的とする。</p> <p>また本授業は、ピアノ演習科目「ピアノⅠ」及び「音楽表現」の学習を知識、理論面から補完するものである。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>テキスト「学生の音楽通論」と五線ノートを用いた座学。</p> <p>[達成課題（到達目標）]</p> <p>歌やピアノの演奏を支える基本的な知識を獲得すること。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎知識①：譜表、音名、音部記号、音符の種類 2. 基礎知識②：強弱記号、速度標語、変化記号、音楽用語 3. 拍子とリズム① 4. 拍子とリズム② 5. 音程① 6. 音程② 7. 音程③ 8. 音階と調①：長音階 9. 音階と調②：短音階 10. 和音の知識①：和音の基本構造、三和音、コードネーム 11. 和音の知識②：属七の和音 12. 和音の知識③：コード進行 13. 試験形式での総合演習① 14. 試験形式での総合演習② 15. 筆記試験 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>毎回、授業の初めに前回の内容について小テストを行うので復習しておく。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>最新 学生の音楽通論（音楽之友社）</p> <p>[参考文献]</p> <p>ピアノⅠで使用する楽譜を持参すること。 適宜資料プリントを配布</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業態度（20%）、筆記試験（80%）</p>		
<p>[備考]</p>					

授 業 概 要

2024 年度

子どもの遊びと文化		演習		担当者	実務経験
				栃木 智美	○
15 回	30 時間 (1 単位)	1 年 後期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>日本や出雲地方に伝わる伝統文化、児童文化財の伝承の重要性を学び、子どもへと伝承する指導技術を習得する。</p> <p>[授業の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童文化について学び、子どもへの伝承方法や指導技術を実践し習得する。 ・地域の文化財や児童文化財に触れ、その発展として身近な素材を使つての児童文化財の研究製作を行う。 <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化、児童文化の伝承をすることができる。 ・児童文化財の製作をすることができる。 					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・児童文化財とは 2. 古代出雲歴史博物館見学① 3. 古代出雲歴史博物館見学② 4. 古代出雲歴史博物館見学③ 5. ふるさとカルタ製作① 6. ふるさとカルタ製作② 7. ふるさとカルタ製作③ 8. わらべうたの伝承とは 9. わらべうたの実践① 10. わらべうたの実践② 11. 作って楽しむ児童文化財① 12. 作って楽しむ児童文化財② 13. 作って楽しむ児童文化財③ 14. 季節を感じる伝承遊び① 15. 季節を感じる伝承遊び② 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>製作に必要な情報の収集、まとめ、教材の準備等を確実にしておく。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>わらべうたあそび 120 (ナツメ社)</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況 (30%)、演習の取り組み (50%) 課題提出 (20%)</p>		
<p>[備考]</p> <p>保育現場での保育士経験がある教員が、その経験を活かして伝承遊び、児童文化財の実践について演習を通して指導する。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

アカデミックスキル		演習		担当者	実務経験
				澤口 右京	
15 回	30 時間 (2 単位)	1 年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>本校での学びにおいて、充実した学習活動とより高い学習成果をあげるための基礎となるスキルの習得を目的とする。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>ノートの取り方、文献の探し方・読み方、レポートの書き方、議論の仕方、発表の仕方を学ぶ。</p> <p>[達成課題（到達目標）]</p> <p>高等教育で学ぶために必要な、基礎的スキルの習得を目標とする。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の受け方 2. 学習するテーマの決め方 3. 論理的思考とは 1 4. 論理的思考とは 2 5. 論理的思考とは 3 6. 資料の調べ方・引用の仕方・研究倫理 7. 文章の読み方 8. 文章のまとめ方 9. レポートの書き方 1 10. レポートの書き方 2 11. レポートの書き方 3 12. 口頭発表の仕方 1 13. 口頭発表の仕方 2 14. 口頭発表の仕方 3 15. 効果的な話し合い 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>授業において配布したプリントを用い、復習を行うこと。</p>					
<p>[教科書]アカデミック・スキル入門 [新版] 有斐閣ブックス 伊藤 奈賀子・中島 祥子(編)</p>				<p>[成績評価の方法]</p> <p>演習(100%)</p>	
<p>[備考]</p>					

授 業 概 要

2024 年度

教材研究		演習		担当者	実務経験		
				高橋 恭子	○		
30 回	60 時間 (2 単位)	1年 通年	必修				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>表現の領域の中でも、造形の視点で必要な基礎知識と技法の習得を目指す。主体的に目標を定め、探究心をもって学ぶ姿勢と共創の精神を養う。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>「描く」「つくる」「造形遊び」等、子どもの視座から造形表現活動で用いる素材や技法、知識を幅広く体験し、思考力判断力を駆使しながら主体的に学ぶ姿勢を養う</p> <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材、表現方法に触れ、創造する喜びを味わい、豊かな感性を育む。 ・他領域との関連性を理解し、現場で応用できる力を身につける。 							
<p>[授業計画]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 描画材料の特徴と用具、紙 2. 描画技法1 3. 描画技法2 4. 描画技法3 5. 色彩について 三原色でかく 6. 実践体験 1 色遊び 7. 平面構成・構成美の要素 8. 描画技法4 9. 描画技法5 10. ポートフォリオ 11. 壁画制作・共同制作 12. 生活空間を彩る・飾る 13. 造形遊び 1 14. 造形遊び 2 15. 展示・鑑賞・まとめ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 実践体験 2 形遊び 17. 立体造形技法 1 18. 立体造形技法 2 19. 立体造形技法 3 20. 空間の共同制作・展示と観賞 21. 立体造形技法 4 22. 立体造形技法 5 23. 描画(平面)技法6 24. 描画(平面)技法7 25. 総合造形技法1 26. 総合造形技法2 27. 平面をデザイン 28. 空間をデザイン 29. 時間をデザイン 30. 展示・鑑賞・まとめ <p style="text-align: right;">*実習前に、より実践的な教材制作をする</p> </td> </tr> </table>						<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 描画材料の特徴と用具、紙 2. 描画技法1 3. 描画技法2 4. 描画技法3 5. 色彩について 三原色でかく 6. 実践体験 1 色遊び 7. 平面構成・構成美の要素 8. 描画技法4 9. 描画技法5 10. ポートフォリオ 11. 壁画制作・共同制作 12. 生活空間を彩る・飾る 13. 造形遊び 1 14. 造形遊び 2 15. 展示・鑑賞・まとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 実践体験 2 形遊び 17. 立体造形技法 1 18. 立体造形技法 2 19. 立体造形技法 3 20. 空間の共同制作・展示と観賞 21. 立体造形技法 4 22. 立体造形技法 5 23. 描画(平面)技法6 24. 描画(平面)技法7 25. 総合造形技法1 26. 総合造形技法2 27. 平面をデザイン 28. 空間をデザイン 29. 時間をデザイン 30. 展示・鑑賞・まとめ <p style="text-align: right;">*実習前に、より実践的な教材制作をする</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 描画材料の特徴と用具、紙 2. 描画技法1 3. 描画技法2 4. 描画技法3 5. 色彩について 三原色でかく 6. 実践体験 1 色遊び 7. 平面構成・構成美の要素 8. 描画技法4 9. 描画技法5 10. ポートフォリオ 11. 壁画制作・共同制作 12. 生活空間を彩る・飾る 13. 造形遊び 1 14. 造形遊び 2 15. 展示・鑑賞・まとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 実践体験 2 形遊び 17. 立体造形技法 1 18. 立体造形技法 2 19. 立体造形技法 3 20. 空間の共同制作・展示と観賞 21. 立体造形技法 4 22. 立体造形技法 5 23. 描画(平面)技法6 24. 描画(平面)技法7 25. 総合造形技法1 26. 総合造形技法2 27. 平面をデザイン 28. 空間をデザイン 29. 時間をデザイン 30. 展示・鑑賞・まとめ <p style="text-align: right;">*実習前に、より実践的な教材制作をする</p>						
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>演習、実技、政策委必要な素材の準備 振り返りシートとまとめレポートや作品提出</p>							
<p>[教科書]</p> <p>実践保育内容 シリーズ 6 造形表現 (一藝社) [参考文献] (一部) 適宜資料配布、参考文献を紹介する。 新造形表現 理論・実践編 (三晃書房) 幼児造形教育の基礎知識 (建帛社) 生活から生まれる新しい造形活動 子どもとアート (小学館)</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>A 知識技能 B 思考判断 C 学びに向かう姿勢 作品スクラップ評価 (40%) 授業レポート (40%) : 最終まとめのレポートも含む 平常点 (出席、受講姿勢) (20%)</p>				
<p>[備考]</p> <p>美術教育に携わった教員が、その経験を活かして教授活動を行う。</p>							

授 業 概 要

2024 年度

乳児保育 I		講義		担当者	実務経験
				栃木 智美	○
15 回	30 時間 (2 単位)	1 年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>3 歳未満児の発達を念頭におき、乳児保育における保育理念と役割について理解する。また、乳児保育の現状と課題について理解を深める。</p> <p>[授業の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 歳未満児の身体発達や乳児保育の意義や役割について学ぶ。 ・ 乳児保育に求められる職務と職員間の協働について理解する。 <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 歳未満児の身体発達と乳児保育の意義について説明することができる。 ・ 乳児保育に求められる職務について、実践することができる。 					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義 2. 乳児の発達の理解 (1 歳未満児) ① 3. 乳児の発達の理解 (1 歳未満児) ② 4. 乳児の発達の理解 (1 歳未満児) ③ 5. 乳児の発達の理解 (1 歳未満児) ④ 6. 乳児の発達の理解 (1 歳未満児) ⑤ 7. 乳児の発達の理解 (1 歳以上 3 歳未満児) ① 8. 乳児の発達の理解 (1 歳以上 3 歳未満児) ② 9. 乳児の発達の理解 (1 歳以上 3 歳未満児) ③ 10. 乳児の発達の理解 (1 歳以上 3 歳未満児) ④ 11. 乳児の発達の理解・まとめ 12. 乳児保育の実際① 13. 乳児保育の実際② 14. 乳児保育の実際③ 15. 筆記試験 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>単元終了後に実施する小テストについて、復習しておく。</p>					
[教科書]			[成績評価の方法]		
適宜、プリント等資料配布 保育所保育指針解説 (フレーベル館)			出席状況 (20%) 授業態度 (20%) 筆記試験 (60%)		
<p>[備考]</p> <p>保育現場での保育士経験がある教員が、その経験を活かして乳児の発達と保育士の役割について講義を行う。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

乳児保育Ⅱ		演習		担当者	実務経験
				栃木 智美	○
8 回	15 時間 (1 単位)	1 年 後期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえ、生活と遊びの実際について知識と技術を習得する。</p> <p>[授業の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の健康と情緒の安定を図るための保育環境や、指導計画の立案の仕方を学ぶ ・保育現場で求められる必要なケア技術について、演習を通して具体的に学ぶ。 <p>[達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児の発達過程や特性を踏まえた援助や関わり方について説明することができる。 ・保育現場で求められるケア技術について、基本的動作を実践することができる。 					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個別指導計画の立案 2. 乳児保育のケア技術とは 3. 乳児保育におけるケア技術演習① 4. 乳児保育におけるケア技術演習② 5. 乳児保育におけるケア技術演習③ 6. 乳児保育におけるケア技術演習④ 7. 乳児と環境構成① 8. 乳児と環境構成② 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習に必要な情報の収集、まとめ、教材の準備等を確実にしておく。 					
<p>[教科書]</p> <p>演習で学ぶ乳児保育（わかば社） 保育所保育指針解説（フレーベル館）</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況（30%） 演習の取り組み（50%） 課題提出（20%）</p>		
<p>[備考]</p> <p>保育現場での保育士経験がある教員が、その経験を活かして乳児保育の実践技術について指導する。</p>					

授業概要

2024年度

障害児保育基礎		演習		担当者	実務経験
				原 広治	○
15回	30時間(1単位)	1年 後期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害のある乳幼児やの保育について理解する。 <p>[授業の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な障害や障害のある乳幼児、及びその支援の方法、環境の在り方について、講義、グループワーク、保育見学等を通して理解する。 ・障害のある乳幼児を養育する保護者(家族)への支援や関係機関等との連携について理解する。 <p>[達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な障害について理解し、障害のある乳幼児への基本的なかわりについて理解し、説明することができる。 					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て環境の変化と子育て 2. 発達と障害のとらえ直しと支援の視点 3. 障害のある子に対する保育施策の歴史的変遷 4. 障害のある子へのかかわりの基本 5. 障害と障害のある子へのかかわりの基本①(資料作成) 6. 障害と障害のある子へのかかわりの基本②(資料作成) 7. 障害と障害のある子へのかかわりの基本③(発表・協議) 8. 障害と障害のある子へのかかわりの基本④(発表・協議) 9. 障害のある子へのかかわり①(保育現場での見学) 10. 障害のある子へのかかわり②(保育現場での見学) 11. 障害のある子へのかかわり③(見学に基づく考察) 12. 障害のある子へのかかわり④(見学のまとめ) 13. 障害のある子へのかかわり⑤(見学からの学び発表) 14. 障害のある子へのかかわり⑥(見学からの学び発表) 15. まとめ 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書は関係する箇所を重点的に活用することから、全体を精読すること。 ・障害や障害のある児者に関する新聞・雑誌等の記事に対する自分なりの考え・感想をまとめておくこと。 					
<p>[教科書]</p> <p>適宜資料配布</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験・課題レポート(70%) ・小レポート(20%) ・発表・協議の内容や学習態度・授業に対する積極性(10%) 		
<p>[備考]</p> <p>特別支援教育の実践や教育行政、療育活動や教育相談等の業務に携わった経験をもつ教員が、その経験を活かして、子どもとその周囲にあるヒト・モノ・コトとの関係の視点から、障害の捉えと障害児への関わりの基本について講義する。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

音楽表現		演習		担当者	実務経験
				白川 浩	○
				白川 千春	○
15 回	30 時間 (1 単位)	1 年	後期	必修	
<p>[授業の目的・内容]</p> <p>保育現場を想定しながら子どもの歌をピアノで弾き歌いできるようにする。弾き歌いの内容はピアノ I で習得したコードを演奏しながら歌う。授業形態は個別授業としそれぞれのレベルに適した授業内容を行う。コード奏はト長調の子どもの歌を主要三和音を用いて演奏できるようにする。コード奏に加え楽譜にある伴奏譜で演奏できるようにする。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第 1 回 B58 ◇お正月 第 2 回 B60 第 3 回 小犬のマーチ(コピー楽譜) 第 4 回 ◇うみ (p54) 第 5 回 幸せなら手をたたこう (p55) 第 6 回 ◇ふしぎなポケット(コピー楽譜) 第 7 回 B66 第 8 回 ◇まつぼっくり 第 9 回 B73◇やきいもグーチャーパー 第 10 回 ◇たき火 第 11 回 B80◇雪 第 12 回 ◇まめまき 第 13 回 ◇とんぼのめがね (p59 こどものうた 100) 第 14 回 ◇おかえりのうた (p213 こどものうた 100) 第 15 回 実技試験 (発表会形式 コード奏 1 曲、ピアノ独奏 1 曲)</p>					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>毎回、新しい課題曲を出すので、次回までに弾ける (歌える) ようにしておく。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>○標準バイエルピアノ教則本 (全音楽譜出版社) ○こどものうた 100 チャイルド本社 ○3 つのコードで楽しく弾ける ピアノ伴奏曲集 伊藤伸明 ドレミ楽譜出版社 ○ピアノ演奏のための基礎ドリル (楽譜配布)</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況・授業態度・期末実技試験を総合的に評価する</p>		
<p>[備考]</p> <p>教育機関 (短期大学・大学) で音楽教育に携わった教員が、その経験を活かして教授活動を行う。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

ピアノ I		演習		担当者	実務経験
				白川 浩	○
				白川 千春	○
15 回	30 時間 (1 単位)	1 年	前期	必修	
<p>[授業の目的・内容]</p> <p>本科目は保育現場で想定される音楽活動を想定しながらピアノ演奏の基礎技術に加えコード奏を習得することを目的とする。授業形態は個別授業としそれぞれのレベルに適した授業内容を行う。</p> <p>初心者は読譜、運指、指・手・腕の基本的な動作及び姿勢など、ピアノ演奏における基礎を習得する。既習者は個々の進度に応じた課題を行う。コード奏はハ長調、ヘ長調の子どもの歌を主要三和音を用いて演奏できるようにする。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第 1 回 弾き歌いについて、ピアノの弾き方の基本、◇ハ長調 五指独立エチュード AB バイエル (以下バイエル=B) 7、10</p> <p>第 2 回 B18 ちょうちょう (右手) (p30)</p> <p>第 3 回 ◇C-dur 左手コード奏 ◇ちょうちょう</p> <p>第 4 回 ぶんぶんぶん (p33) かえるの合唱 (p18)</p> <p>第 5 回 B21, 31</p> <p>第 6 回 B38, 40</p> <p>第 7 回 ◇ぶんぶんぶん ◇ハ長調左手コード伴奏パターン</p> <p>第 8 回 ◇むすんでひらいて (p43) ◇いとまきのうた (p14)</p> <p>第 9 回 ◇大きなくりの木の下で (p73)</p> <p>第 10 回 B46</p> <p>第 11 回 B48, 49</p> <p>第 12 回 ◇ヘ長調五指独立エチュード A, B ◇ヘ長調左手基本コード</p> <p>第 13 回 ◇ぞうさん (p 63) ◇たなばたさま (p 66)</p> <p>第 14 回 B52、55</p> <p>第 15 回 実技試験 (発表会形式 コード奏 1 曲、ピアノ独奏 1 曲)</p>					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>課題曲を次回までに弾けるようにしておく。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>○標準バイエルピアノ教則本 (全音楽譜出版社)</p> <p>○こどものうた 100 チャイルド本社</p> <p>○3 つのコードで楽しく弾ける ピアノ伴奏曲集 伊藤伸明 ドレミ楽譜出版社</p> <p>○ピアノ演奏のための基礎ドリル (プリント楽譜配布)</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況・授業態度・期末実技試験を総合的に評価する</p>		
<p>[備考]</p> <p>教育機関 (短期大学・大学) で音楽教育に携わった教員が、その経験を活かして教授活動を行う。</p>					

授業概要

2024年度

造形表現 I		演習		担当者	実務経験
				高橋 恭子	○
15回	30時間(1単位)	1年 後期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>造形表現の側面から、子どもの発達段階・特徴を理解し、教材化できる力を身につける。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>教材研究で学んだことをベースに、保育現場での教材化のプロセスや応用力を身につけるためのワークを積み重ねる。</p> <p>[達成課題(到達目標)]</p> <p>十分な知識の裏づけを持ちながら、多様な表現活動について考えを深め、子どもの造形表現やより主体性を高める活動にする。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 幼児造形表現の理解 描画活動の発達の段階 2. 幼児造形表現の理解 空間再現 3. 幼児造形教育の目標と内容、方法 4. 造形の見方と評価 5. 鑑賞 アートゲーム 芸術を楽しむ 6. 模擬保育1 事例から展開を考える 7. 模擬保育2 事例から展開を考える 8. 造形遊び 自然物をつかって どんぐり落ち葉の取り扱い・加工 9. 造形遊び 異素材をくみあわせて 10. 絵本・紙しばい・パネルシアターを考える 保育教材の特徴や役割を理解する 11. 絵本・紙しばい制作の技法 12. 絵本・紙しばい制作 制作を通して画材活用、応用力を身につける 13. 絵本・紙しばい制作、作品発表 14. プロジェクト保育について 15. プロジェクト保育について *実習前に、より実践的な教材制作をする。 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>教科書等を参考に、題材のイメージをつかんでおく 振り返りシートとまとめレポートや作品提出</p>					
<p>[教科書]</p> <p>実践保育内容 シリーズ6 造形表現(一藝社)</p> <p>[参考文献](一部) 適宜資料配布、参考文献を紹介する。 新造形表現 理論・実践編(三晃書房) 幼児造形教育の基礎知識(建帛社) 生活から生まれる新しい造形活動 子どもとアート(小学館)</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>A 知識技能 B 思考判断 C 学びに向かう姿勢 作品スクラップ評価(40%) 授業レポート(40%) :最終まとめのレポートも含む 平常点(出席、受講姿勢)(20%)</p>		
<p>[備考]</p> <p>美術教育に携わった教員が、その経験を活かして教授活動を行う。</p>					

授業概要

2024年度

言語表現		演習		担当者	実務経験
				岩田 裕子	○
8回	15時間 (1単位)	1年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>乳幼児の言語の発達について理解を深め、絵本やわらべうたなどを通して子どもの言語世界をより豊かなものにするための表現力を身につける。ひいては自身の言語感覚を研鑽し、保育者・社会人として言葉に対する責任感を養う。</p> <p>[授業の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の言語発達について、乳幼児を取り巻く環境の及ぼす影響や発達段階に応じた言葉の特質について学ぶ。 ・絵本（の読み聞かせ）、わらべうた、紙芝居などの歴史や特徴を理解し、それらの表現方法について実践的に学ぶ。 <p>[達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の言語の発達について理解し、子どもの対応に応用できる。 ・絵本や紙芝居などの児童文化財の種類や特徴について理解し、それらを用いて効果的に表現することができる。 					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語とは何か 2. 乳幼児の言語発達段階と言語環境 3. 絵本の歴史と読み聞かせの意義・実践 4. わらべうたの歴史と意義・実践 5. 紙芝居の歴史と意義・実践 6. ふるさと（島根）の昔話から学ぶ 7. ストーリーテリングの世界・言葉の力・生きる力 8. 筆記試験・まとめ 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に読み聞かせで使用する絵本を2～3冊選んでおく。 					
<p>[教科書] 保育所保育指針解説（フレーベル館） 幼稚園教育要領解説（フレーベル館）</p> <p>[参考文献] 教員作成資料 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）他</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業態度・意欲（20%）提出物（30%） 筆記試験（50%）</p>		
<p>[備考]</p> <p>教育機関（小学校・特別支援学校・短期大学・大学）での勤務や子育て事業・保育士研修に関わる経験をもつ教員が、その経験を活かして、言語による豊かな表現方法について、具体的・実践的な講義を展開する。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

身体表現		演習		担当者	実務経験
				黒田 慎太郎	○
8 回	15 時間 (1 単位)	1 年 後期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>声・表情・全身を巧みに使い、自身の表現技術の向上を目指す。</p> <p>[授業の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な身体表現技術について、演習を通し実践的に学ぶ。 ・幼児に向けた発表を想定し、想像力・表現力の向上を図る。 <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた表現技術を応用させ、幼児の前で発表する。 					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体表現とは 2. 身体表現技術と視覚教材の関係 3. 身体表現技術の演習 4. 演習の応用① 5. 演習の応用② 6. 演習の応用③ 7. 演習の応用④ 8. 演習の応用⑤ 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>事前の課題や準備物に対し、準備を整えて授業に参加する。</p>					
<p>[参考文献]</p> <p>適宜、プリント資料配布</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況 (50%)、演習の取り組み (50%)</p>		
<p>[備考]</p> <p>保育現場での経験がある教員が、その経験を活かし指導する。</p>					

授業概要

2024年度

教育方法論		講義		担当者	実務経験
				黒田 慎太郎	○
15回	30時間 (2単位)	1年 前期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>幼児期にふさわしい保育方法や保育形態の理解を深め、保育観（保育に対する自分自身の考え方）の形成に関わる知識や、総合的な指導方法を学ぶ。</p> <p>[授業の内容]</p> <p>保育方法の基本である「養護と教育が一体となった保育の方法」「環境を通した保育の方法」「遊びを通した保育の方法」を具体的に学ぶ。また、家庭や地域と連携した保育の方法も学び、学んだことが実際の保育に結びつくように具体的な実践事例をとりあげ、考察していく。</p> <p>[達成課題（到達目標）]</p> <p>保育の方法を学び、自分はどうのような「保育観」を持ちたいのか保育の理想を語る事ができる。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 教育方法の基礎理論 3. 遊び、生活を通した保育 4. 環境を通した保育 5. 保育における物的環境、人的環境、 6. 「主体的、対話的で深い学び」と教育方法の関係 7. 子どもの理解や保育の記録と評価 8. 幼児教育・保育における情報機器（ICT）の活用 9. 0・1・2歳児の発達のと時期に応じた保育方法 10. 3・4・5歳児の発達のと時期に応じた保育方法 11. 家庭・地域と連携した保育 12. 小学校との接続のデザイン 13. 多様な子どもたちへの保育方法 14. まとめ 15. 筆記試験 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>シラバスに示された次回授業内容のテキストを読む。</p>					
<p>[教科書]</p> <p>九州短大テキスト：幼児教育・保育のための教育方法論（ミネルヴァ書房） 保育所保育指針解説（フレーベル館） 幼稚園教育要領解説（フレーベル館）</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業態度 (15%) レポート課題 (15%) 筆記試験 (70%)</p>		
<p>[備考]</p> <p>保育現場での経験がある教員が、その経験を活かし講義を行う。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

保育実習 I (保育所)		実習		担当者	実務経験
				栃木 智美	○
10 日	90 時間 (2 単位)	1 年 後期	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 ・ 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 ・ 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ・ 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 <p>[授業の内容]</p> <p>これまで習得した各教科の知識・技術を基礎とし、これらを総合的に保育現場において実践する応用力を養う。また、乳幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟する。</p> <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <p>10 日間の実習を通して、子どもの理解・職務理解を深め、保育士としての自己課題を見つける。</p>					
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理 					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>実習園の概要を事前に調べておく。</p>					
<p>[教科書] 千春と大吾の保育実習ストーリー (萌文書林)</p> <p>[参考文献] 保育実習要綱</p>				<p>[成績評価の方法]</p> <p>評価表にて検討</p>	
<p>[備考]</p> <p>保育現場での保育士経験がある教員が、巡回訪問にて保育実践、記録物等について指導・助言をする。</p>					

授 業 概 要

2024 年度

保育実習 I (保育所) 事前事後指導		演習		担当者	実務経験		
				栃木 智美	○		
15 回	30 時間 (1 単位)	1 年 後期	必修				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習の意義・目的を理解する。 ・ 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・ 実習園における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ・ 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 <p>[授業の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習では保育実習に必要な基礎知識を学び、記録物の書き方等を習得する。 ・ 事後指導では保育実習の総括を行い、保育士としての自己の学習目標及び課題を明確にする。 <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習に必要な知識・技術を習得し、実践することが出来る。 ・ 実習を通して、自己理解と保育士を目指す上の自己課題を明確にすることが出来る。 							
<p>[授業計画]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【事前指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習総論① 2. 実習総論② 3. 実習総論③ 4. 実習総論④ 5. 実習総論⑤ 6. 事前オリエンテーション 7. 実習日誌の書き方① 8. 実習日誌の書き方② 9. 実習日誌の書き方③ 10. 指導計画の立案① 11. 指導計画の立案② </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【事後指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 自己評価及び実習報告 13. 自己課題の明確化① 14. 自己課題の明確化② 15. 日誌の修正 </td> </tr> </table>						<p>【事前指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習総論① 2. 実習総論② 3. 実習総論③ 4. 実習総論④ 5. 実習総論⑤ 6. 事前オリエンテーション 7. 実習日誌の書き方① 8. 実習日誌の書き方② 9. 実習日誌の書き方③ 10. 指導計画の立案① 11. 指導計画の立案② 	<p>【事後指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 自己評価及び実習報告 13. 自己課題の明確化① 14. 自己課題の明確化② 15. 日誌の修正
<p>【事前指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習総論① 2. 実習総論② 3. 実習総論③ 4. 実習総論④ 5. 実習総論⑤ 6. 事前オリエンテーション 7. 実習日誌の書き方① 8. 実習日誌の書き方② 9. 実習日誌の書き方③ 10. 指導計画の立案① 11. 指導計画の立案② 	<p>【事後指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 自己評価及び実習報告 13. 自己課題の明確化① 14. 自己課題の明確化② 15. 日誌の修正 						
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <p>実習に関する調べ学習や書類等の事前準備をする。事後は実習日誌を振り返り、修正し提出する。</p>							
<p>[教科書]</p> <p>千春と大吾の保育実習ストーリー (萌文書林)</p> <p>[参考文献]</p> <p>保育実習要綱・適宜プリント資料配布</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業態度 (30%)、課題提出 (50%)</p> <p>出席 (20%)</p>				
<p>[備考]</p> <p>保育現場での保育士経験がある教員が、現場で実習指導をした経験を活かし、実習の心得、記録物等の指導をする。</p>							

授 業 概 要

2024 年度

社会人基礎力 I		演習		担当者	実務経験
				担任	
20 回	20 時間 (1 単位)	1 年 通年	必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>職場や地域社会において活躍する上で重要となる基礎的な能力の習得を目指す。</p> <p>[授業の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講義や演習等に参加する。 自己の人生設計に関わる知識、社会人として望ましい姿勢や態度などを学ぶ。 <p>[達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会人として必要な知識や態度について理解を深める。 					
<p>[授業計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 自己の現在についての振り返り 年金について 情報リテラシーについて 人権・同和問題について メンタルヘルスについて <p>※ 内容については、状況に応じて追加・調整を行う。</p>					
<p>[事前・事後学習の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 随時、授業や講座で配布された資料に目を通しておく。 					
<p>[参考文献]</p> <p>適宜、資料配布</p>			<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、受講態度を総合評価</p>		
<p>[備考]</p>					